俊寛

罪詞

是ハ西お國に仕へ申者にて候
抑も此度中宮御産の御祈り
ためニ非常乃大赦行はるゝに
よつ國々の流人赦免あるなり
まも鬼界ヶ島并流人のうち丹
波乃少將成經平判官康頼二人
赦免の御使なれハ乗達候へる

二八 次第

ばて罪業の路へと恵は神を

ぃりふり路なり形ぼく取ひも

りん阿の山なりせこ形か九州

薩摩りさ罪業り志乃涼人の

中丹波のかぬ陰路平判官入さ

康頼二人に果ゆく行きわが取不

形よあまし晴ぐまの常陪三十

三度乃お極みなきおきんと立取

きし小ぞなりはゆも数らて

ず成幸海乃芳となまは所取も

世なしくけやなわぬぎめんの

子の領りやばき下よ三熊野を

勧請中みやこよりま孫先津乃九

十九所乃王子きとくな

上寄

吹礼の神路よりぬさ捧げ
こゝとてもお野し宮井ゆる
三熊野のしづうおきまいらふ
ひとへ所麻衣の志かはしを
たゝまもる白衣ゆふだすきかを

下

とわて髪米小ぜをふり所の

下

浮後しる神にあ遊ミをきさる

下

後ニテ弾

なわく おち懸しの残がさて
鬼界の鴻まとがる方おそれ

サシ

膳なよわがきをようのよさ
玉兎昼眠雲母の地金銀衣冠は
不萌乃枝寒蝉古木を抱てなよ
はくしてうまへなめくりさは
後覚り方の上にしりきそは

康頼「あまり所(?)の其(?)俊寛ゆく渡り候り

ご(?)さハ汲(?)の為に清(?)出て候

シテ詞「けにやくも清流しとりめたわ

ござ迎へのそれ〳〵小酒を持て

見よ参りて候「そも一酒とは

この嶋に竹葉(?)あるべきぞと

ござらめ(?)みまほしや見えハみまわ

「げに是ハ信ある人も罪除也(?)

中にも光寿見く汲わの水なれば

ご(?)酒なりてなともあうるへき(?)

二人上カル「實く是は理りなれバ長月

ツレ上ヤル「時ハ重陽　二人上「所ハ山路　ツレ下(?)「谷水の

三人上「彭祖ハ七百歳を經しも汲(?)を

上音(?)「汲えし深谷の水乃すゝしに

実も薬と葉水からぐ心の庭も
まろきぬのぬまで隅すだ山路乃
萱乃露からまいばらも手を小随
いさける砥所ハ梅もとゞきらう
ばるゝ友さけてまろき秋く神余の
東海なをば筆木なら亀うあひろや
芭蕉しの葉やおりひろえほよ

中
浮きしもおそ涙れよなし時ぞ
ばの勝る法成寺咲夢見楼の衰なら
まろかびハとぼしのひ夜の庵て
五裏城亀の縁なきや落る木乃
業札をうほまば乃寺通ハ谷々の
雎うつくもみ濱川三郎の夕人色
下
飼か脇もなを物思ふ時しもは

たゝよふ程見へ来れ 〽 とや船乃
かよふの道も追手の風ぶなこや
いつれも[illegible]世 〽 何り小口
志まみなりてる流人の御坐はり
ばくれ赦免状を持て参りて候
急ぎ御覧候へ 〽 急ぎ開やは
とぞ御やはよれ御読候へ 〽 何と

中宮御産の御祈乃為よ非常乃
大赦行はるゝによれ国々流
人赦免ある中よも鬼界ヶ島の
流人のうち成経康頼二人赦免
ときこへ候 〽 何とて俊寛をは
後ホとし給ふそ 〽 御文ハ入り候
さうば赦免状の面を御読候へ

シテ詞 梅ハ筆者のあやまりなりけり

早詞 げにや業平も康秀も僧正

二人ハ清行中僧寛一人を以

シテ上 浦に残しやさとの浦すまひ

こゑハ小鳥も心ー鳥飛も

むなし飛ぶ脇もおなし大敵

なかまにひとまちひの花に

もれてる流ミ果なきことわりよ

ば蹂ハ三人一所よそは乱ふ

ざもおりはしくひきむしーき

あらし磯島よ吹ひとまざなおく

海士のひそ草乃波のもくにまの

よるへも渺くてあらし神世の

浅猿や数くにうひもなきさの

手向くるわ多が百様のな
時を感しては花も涙をそゝき
ぶあきをうらみて鳥とるも心な
うこゝのきつのまかよわもほし下
鬼界がしまときくなれば鬼のほ
所もそ今生よりのめいとなわ
だとひいかなる鬼なりとも此哀

などか知らざらん天地を動し
鬼神も感をなしかなも人の
あはれなる物をは鳴乃歎も
鳴る我をとふやらんさめ〴〵
思ひのあまりにや先よ後くは
昔物をみひ秀ひきつ汝を
ぐわか庵〳〵がんさとも〳〵

たゝ成経康頼とのきたる書ぬ
さりながらもしも礼紙にや
あはらんけまき返して見れとも
僧都とも俊寛が名の文字ハ
さらに小田し〳〵大筆のさゝむ書
聞ゝは覚よし　思ふはかなき
俊寛の有様を見るうちある秋

羊上音ル
さわゝ秋　時刻うつりてけふ
ましき成経康頼二人をうながする
天五ナ上
乃御人とよ　めくろうへ美
すなはちあずまの数きを一わ
しそく二人ハ舟にのりてとれ
玉ナ詞
僧都も船に乃らんとそ康頼の
羊上音ル
袂にとりつきは　僧都大

船よかなつまし呼ぞもあらけ
なく〳〵纜はうちて居に
おかやれ船とふ子乃あまたは
せめては向ひの地までなりとも
情よのせてたびたまへ　情も
しらぬ舟子どもろいを振揚
うたん[illegible]は[illegible]は　さらばの[illegible]乃

か[illegible]きふさ立この人まし出舟す
どもほなまとるま[illegible]とせは
舟人ともほ聞なしきほて船を
ふかみに押いさす　さ無[illegible]さ
なのかゆく〳〵なりしかば手を
あけをて[illegible]よなふ　船よ[illegible]
い[illegible]との綱に[illegible]　力及ばずに

俊寛ぞ舟乃流よひきつてる
松浦さよ姫もわか身はよも
さし汐ち雨もあしまのいなき
かくわいとはし乃浮りや
ぶか掛よ上つるなはよふやまよ
中な我しはくゝやのそ帰浪は
あは面し待人つよく待たまへ

帰浪をまのそよらし弥ゞはゝる弥
ものひり弟風通凡をま汲のけ
ふまをなきさしてきゝ春わ
仰やゝふ曉中よ浪乃ばゞあゝよ
俊寛を中なをさハ程もなく
かなし人帰浪のへしや是ハ
まさとり中ゝに歎むうよ

一丶一一一一下冂丶丶ニハルフ下丶

つ薩もしくて　きのれよくぢ

一一丶一丶丶丶一丶丶丶

いふあるもひのこもぢたひ小

一ニハル一下一二丶二丶ニハル一一一

遠きの波無限波乃ずれりなみ

ニ一一フ下フニハル一一一フ下二丶フ丶

揚たえて小那のきも人のけも

丶丶丶一丶フ丶一一一丶一

きえてつへくひなわにわわあら

一丶一一一一丶丶丶丶

きえてみえけまわよけわ